新潟開港150周年　日本遺産認定

湊を見守る「住吉さま」に感謝し、新潟の繁栄を祈る歴史あるおまつり

新潟まつり

住吉祭・住吉行列

平成30年 8月10日(金)～12日(日)　平成31年 8月9日(金)～11日(日)

文化庁「日本遺産」の平成29年度構成文化財に、「住吉祭・住吉行列」が認定されました。
平成31年1月1日は新潟開港150年。記念すべきこの時に、湊町新潟の歴史にふれてみませんか。

「住吉祭」と「住吉行列」のルーツを辿る

昭和30年頃の住吉行列

「住吉祭」とは、新潟の繁栄の象徴であった湊の守護神・住吉さまに、日々のご加護を感謝するおまつりです。昔は「湊祭」と言われ、起源は洲崎町（現在の本町13・14番町）の湊元（つもと）神社の祭礼にあります。湊元神社は延宝8年（1680）6月、新潟の廻船問屋「網干屋」の広嶋治兵衛が、摂津の国一の宮・住吉大社からご神体を受けて創建された神社で、海上安全・大漁満足の神様である「住吉の神」をお祀りしていました。湊元神社の神輿が町全体の「湊祭」に発展したのが寛保3年（1743）頃。壱番組から八番組が独特の纏を引いて供奉（ぐぶ）する大規模な町廻り「昼の祭」と、九番組から二十二番組までが纏灯篭や提灯を押し立てて海岸まで繰り出す「夜の祭」が、昼夜盛大に行われたと伝えられております。

新潟のシンボル萬代橋を渡る行列

その後、幕末の天下騒乱・県令・大火・不景気・戦争などでまつりは中止・再開を繰り返しました。昭和22年8月に「商工祭」「開港祈年祭」「川開き」がそれぞれ復活、昭和30年にはそれらのおまつりと「住吉祭」とが統合され、現在の「新潟まつり」の形となりました。白山神社には安政5年（1858）に造られた「住吉祭」のみこしがまつられており、「新潟まつり」の住吉行列では御座船に奉戴して市中を巡行いたします。

新潟まつりの起源となった4つのまつり

享保11年（1726）から続く、湊町新潟の発展と繁栄を祈願する「住吉祭」。
この由緒あるおまつりを基に、明治以降に始まった3つのおまつりを統合し、
昭和30年に現在の新潟まつりの原型が完成しました。

住吉祭

湊元（つもと）神社の祭礼「湊祭」が起源とされています。延宝8年（1680）6月、新潟の廻船問屋「網干屋」の広嶋治兵衛が大阪の住吉神社からご神体を受けて創建された神社で、享保11年（1726）に行列を組むまつり「住吉祭」が行われました。延享5年（1748）白山神社の境内にも住吉神社が建立され、湊元神社はその後合祀されたとの記録が残っております。現在の住吉行列では、住吉さまのおみこしが信濃川を東から西へと渡る「水上渡御」で湊の安全を祈ります。

住吉神社

享保6年（1721）新潟の町を大洪水が襲い、湊の入港船舶も減少することに。何とか港勢回復をという人々の切実な願いから、延享5年（1748）大阪住吉大社より住吉大神（底筒男命・中筒男命・表筒男命）、息長足姫（神功皇后）を勧請し、白山神社境内に祀ったのが住吉神社です。湊町新潟の商売繁盛・海上守護を見守る住吉大神とおみこしをお祀りし、玉橋脇には「新潟湊鎮護 住吉神社」と大きな石の社号標が建立されております。

開港記念祭

安政条約による5港の一つとして明治元年11月19日に新潟港が開港しました。昭和5年には開港60周年の記念式典が開催され、それまでの記念日を「記念祭」として、史料展や物産展など多彩な催しが賑やかに開かれたそうです。

水上渡御

水の都新潟の海上安全・湊の発展を祈願する「水上渡御」。住吉行列の御座船に乗せて町の安全と繁栄を祈り新潟の街を巡行される住吉大神さまのおみこしは、白山神社を出発し、信濃川河口の右岸に到着すると水上の龍船へと乗せられます。そして、約50隻もの船とともに海上安全と湊の発展を願い信濃川から海上を回って対岸へと渡ります。華やかな水上パレードの後、左岸に着いたおみこしは再び御座船へ乗り、古町通を通って白山神社へと戻っていかれます。

川開き

明治41年、新潟は2回にわたり大火に見舞われました。一日も早い復興を期して、明治43年に「新潟川開き協賛会」が結成され、9月10日・11日、萬代橋下流の中洲で花火が打ち上げられました。これが「川開き」の起源とされております。

商工祭

昭和4年秋、商業振興を目的とした広告パレードを開始。これを発端に「商工祭」の名が付けられました。戦後は各企業の趣向を凝らした山車が連なり、古町芸妓も総出で華やかさを競うなど、行列は延々5キロにも及んだと言われております。